



企業の情報は どうつくられるか

日産自動車株式会社追浜工場でのフィールドワーク | 企業の製造プロセスの実態を数字として表す原価計算の理論を理解するために、現場を直に目にする

もしもあなたがある企業の株を買うとしたら、まずは何を調べますか。恐らく、その企業がどれくらい利益を上げているか、ではないでしょうか。企業が作る製品の利益は、(売上) - (原価) で計算されます。原価とは製造にかかるお金のことで、自動車のような有形物の場合は材料費、労務費、経費の3つで決まります。この原価を、製造の工程ごとに計算することにより、どこかで無駄な費用が発生していないかをチェックすることができるのです。このように、企業の活動を「金額」という情報で表現し、管理する学問を会計学といいます。企業には企画、製造、営業、経理といったさまざまな部署があり、それぞれ異なる活動をしています。会計はそのすべてに適用されます。金額という一つの「モノサシ」をあてがうことで、企業をまるごと計ることができるのです。値上がりしそうな株を買うだけでなく、将来、自分の仕事が会社の利益とどう関係しているかを理解するためにも、是非、このゼミの扉をノックしてください。

(岸田 隆行 教授：原価計算論)

経営学科のその他の演習(ゼミ)テーマもCheck! P.087